あすを創る　企業と製品

段ボール用刃物のスペシャリスト

近畿刃物工業

時代のニーズを読む

コアな技術へのあくなき追求

段ボール用刃物に特化

近畿刃物工業（大阪府守口市、岡部信博社長、03・6901・1221）は1960（昭35）年の創業以来、半世紀にわたって工業用刃物・部品を製造してきた。中でも家電製品から農作物、飲料・食品などさまざまな分野の物流に欠かせない紙製段ボール用刃物のメンテナンス（研磨）やユーザーごとの細かく仕様を打ち合わせたオーダーメードの刃物造りを事業の中心とする。

段ボール刃物に特化した製品業者は、愛知県以西に2社とニッチな市場である。同社は顧客の要望にきめ細かくこだわった品を提供するほか、製品ナンバーを印字し、リピート・オーダーに際して過去の工程図の検索、コストダウン

往文内容をすぐに再現することもにトレーサビリティを確保した上で改良を提案する仕組みを構築した。

同社のラインでは月1000アイテムのオーダーが流れるが、製造を確認した後の作業着手が無早く、材料加工から検査完成出荷まで社内で一貫して行うので他の刃物メーカーに比べてもさく短い納期を可能にした。97年に新たに段ボール用スロッター刃物の新製品、刃先が平ノコ刃形状の「サクット」を開発した。

製品開発にあたっては「顧客へ素早く対応し追求する二つのバランスをとり、社員ひとり一人に半年ごとの目標を立てさせ自己評価の報告書を提出させる。

しにくい材質に変更して応力強化のため取り組む。前述の「刃物」部分をユニット化し、刃物寿命を伸ばした刃物にも構造的に取り組む。前と成果について見える管理を行うようにし、正当な評価を受けやすくした。

熱心で、今年11月には守口市・門真商工会議所会員大会で社員3人が「産業功労者」表彰を受賞した。

今後、同社は半世紀にわたり蓄積してきた技術を元に、段ボール用刃物の深耕を進め、製造現場の高まりから包装材料を発泡スチロールから段ボールへ代替する動きが活発化しており、要求される加工形状・速度が変化している。新しいニーズには新しい作機械を導入して対応するとともにそれに伴う人材の育成にも力を入れる。そして、これら全通して得たノウハウを生かし、他分野への進出も検討しているインターネット活用による顧客層の大にも取り組む。会社をこう進化させ、技術の継承をどう行うか。同社の将来を見据えた展開が注目される。

迅速な対応力

「顧客へ素早く対応し追求する二つのバランスをとり、社員ひとり一人に半年ごとの目標を立てさせ自己評価の報告書を提出させる。

「刃先形状を改良し切れ味を向上した。加えて摩耗くりを温存してゆきたい」

「同形清潔社長と語り、対応力強化のため取り組む。前と成果について見える管理を行うようにし、正当な評価を受けやすくした。

その部度自分の産標を明で、社内にムードメーカーを育成すべく阿形社長自ら力を注いでいる。社員の

高付加価値をもつ製品群